

平成 22 年度新潟県原子力防災訓練 視察感想

日時：平成 22 年 11 月 5 日（金）

場所：新潟県柏崎刈羽原子力防災センター（オフサイトセンター）、
柏崎市総合体育館、長岡市みしま体育館

参加委員：10 名

視察直後の意見交換の内容及び、後日提出された感想をまとめ箇条書きにした。

▶ オフサイトセンター

- ・ 事故現場の様子が全然分からない。（仮想モニターでも良いが表示）発電所事故現場の様子が知りたい。
- ・ 気象など当日の各種条件などは（仮想）大きく表示したらどうか？（天候、風力・風向、気温、湿度など各種データ）表示（途中）はあったが小さ過ぎ。こんなもので良いのかナア？と思った。放射能発生に絡んだ事故ならこれらは必要不可欠な条件ではないだろうか。これによって住民避難の計画がなされると思う。ついでにその他の表示として各放射能観測地、広報通達（発表）状況、住民の避難状況（各所）（書き込み式図面）
- ・ 各班、事故に対する対応は良かったと思う。
- ・ 各班（グループ）毎の内部検討（話し合い？）などが良かった。
- ・ 特に総括班からの指示は的確であった。
- ・ 時間関係もあるが、市の広報や住民避難状況などが全く見られなかった。（他で確認？）同様マスコミ関係（テレビ放送）の情報なども。
- ・ 複合災害ということがわかり難く、会場の掲示物を見てやっとわかった。
- ・ 全体的に災害に対する緊張感がなく各班の動きがのんびりムードであった。
- ・ 災害の進行情勢（状況）について、タイムリーな連絡が、私たち視察者について伝わらなかった。
- ・ 雪の害による複合的な災害ということであったが、訓練には雪害のことが反映されていなかったようである。
- ・ オフサイトセンターの情報伝達の仕方について、市民に対する防災無線をもっと活用すべき。
- ・ センター内のアナウンスが分かりやすく良かった。例えば『10 条とは～』と説明があったり、副大臣のアナウンス『情報の共有を図り、円滑に～』は一体感が生まれたと思う。
- ・ ヘリが海難事故で飛ばない事となったが、このハプニングを「即中止」でなく、

何かに変更できなかつたのかと疑問に思った。

- ・ 関係者のみの訓練ー地震時・災害時の経験から、防災行政無線の限界と公共放送の重要性を認識していた。原発計画当初には、半鐘とサイレン以外に緊急連絡手法がなかった。2度の地震被災時に最も役立った情報はカーラジオからだった。停電したことや余震の心配で家には入れず車に泊まった者が多い。防災行政無線はヘリコプターの騒音で聞こえず余り役立つものではなかった。
- ・ 訓練に公共放送関係者の「場」がなかった。新聞は1日遅れで速報性に欠ける。TVは停電時にカーテレビを観られる者は少ないが、ラジオやTVは速報性がある。災害対策にマスコミが含まれているはず。なぜその場がなかったか奇異に感じた。
- ・ 災害想定的前提条件の問題。年始めからの豪雪を想定していた。津南町・秋山郷孤立の2005年の冬に類似を想定していたと思われるが、柏崎刈羽の交通網が遮断された本年1月や新潟周辺の116が交通止めになった本年2月の事態の想定ではなかった。その意味で甘い想定と言わざるを得ない。
- ・ 停電や交通遮断(雪・地震・豪雨浸水)はしばしば起こる現象である。原子力災害と自然災害を重ねた想定を考えると大変なことになる。原発は地域にとって大変やっかいな物であることを改めて認識した。
- ・ 従前は、やっかいな物ーマイナスイメージ拡大を防ぐため、防災計画はおざなり、住民参加も皆無だったことを知る立場からは、隔世の感を覚える。それだけ、原子力災害の現実性が増したためだろう。
- ・ 自然災害との同時発生ー以前から求めていたことで、一步前進した。関係者の努力は評価するが、現実はもっと厳しい。
- ・ 今回の訓練は、十分な準備がなされた上で行われたもの、シナリオはできあがっていた。今後は、休日や夜間の訓練や、関係者の準備なしの訓練が必要だと考えた。
- ・ 関心の低さー視察者は少数だった。一般の関心の低さは、あきらめのためか原子力嫌悪の表れか。

➤ 柏崎市総合体育館

- ・ 会場に着いて驚いた。大勢の白衣の方々、罹災者らしき人が見当たらない。(時間が早すぎ?)何もしないで「ポケッ」はないと思う。(私は先回、「松波自主防災会」で同じ訓練に参加しているが、会場はもっと騒然としていた)
- ・ 避難者到着し検査などが行われたが人数が少ないためか相当早く終わった。検査周辺や観覧席から見学したが、参加者は高齢者が多く殆どと言っても過言ではない。平日だから仕方が無いと納得した。
- ・ 周囲の住民参加(見学者)が全く無かった。又、数名の体育館利用者も「全く関

係無い」とばかり勝手にランニングをしている。何とかならないか！

- ・ 会場に検査内容や何のため何をするのかの説明が無かった。(あったのかな) 参加者が退屈している様子が有りありと見え、マイクがあるのに説明や何かのスピーチ欲しい。
- ・ ここでも事故に関する発電所からの情報が全く無かった。
- ・ 入場者に対しての指示連絡が悪くとまどっていた人もいた。
- ・ 事故の経過についての放送がなく、災害に対する緊張した雰囲気欠けたのんびりムードの訓練だった。
- ・ ヨウ素剤は確かにあったが飾ってあっただけ。
- ・ ヨウ素剤について展示されていたものの、どういうふうに配布するのかがわからないまま終わった。疑問が残る。
- ・ あまりにも訓練の参加者が少ないので活気がない。
- ・ 講習会は長すぎる。もう少し整理が必要。
- ・ 講習会は長すぎる。わかりやすく伝える、工夫が必要である。モニター、模型、実物等を使用すべきである。
- ・ 今、どこで、何をやっているのか中心になって説明をする人がいなかった。
- ・ 園児が来たときは御通夜のような感じだった。20名くらい来たが3人だけ問診をして帰った。
- ・ 参加者が右往左往している場面も結構あり、自分は終わったらどこへ行けばいいか迷っているようだった。実際の災害時はもっとごった返すと思うのでもう少し整理の必要があると思う。
- ・ 避難所(総合体育館)での住民の誘導はハンドマイクを使うなどして戸惑うことのないようにすべきだ。予告なしの本番であれば後に続く人が行列をつくり混乱すると思う。
- ・ 住民(参加した方)アンケートがあるのなら、「視点」等で特集してはどうか。
- ・ 見学に市体育館に着いたときはほぼ終わっていたので、特徴的な感想はできないが、関わった住民の人数が少なかったように思う。
- ・ 後半の「放射線の勉強会」はもう少し簡潔にしたら有効だと思う。
- ・ 医療機関などは専門的立場での訓練になったのは違いないと思う。
- ・ 到着した住民には、現場での混乱が見られた。きちんと指示を行う責任者・リーダーシップをとる人が不在だったため混乱が生じてしまったと思う。
- ・ 住民の皆さんにはマニュアルがあってないようなもの。だとすれば現場には強力な指示をする人、あるいは、今どこそどこで何をやっているのかを広報するリーダーの存在が欠かせない。
- ・ あの暴風雨のなか、高齢の住民の皆さんが、杖をつきヘルメットをかぶり自衛隊員に助けられての入場には頭が下がった。それにひきかえ、へりで柏崎入りされた東京電力の副社長さんはヘルメットもかぶらずに原子力防災訓練に参加

とはいかがなものか。全く緊張感を欠いていると言わざるをえなかった。

➤ 刈羽村内

- ・ 消防団が訓練中であることを街宣していたが、一般の関心は必ずしも高くない。
- ・ 刈羽村役場は職員の 4 割程度が、訓練に関係していた様子。日常業務の他に、原子力関係の負担が、行政職員にも重くのしかかっている。

➤ 中通地区

- ・ 防災無線は、訓練に参加する中通地区しか放送をしないということなので、オフサイトセンターの第一回現地対策会議終了後、中通コミセンに詰めた。防災無線は、

第 1 報 9 時 30 分頃 事故第一報、外出は避けての屋内待機。

第 2 報 11 時 15 分 引き続き、外出は避けての屋内待機。

第 3 報 11 時 55 分 国が 11 時 40 分に緊急事態宣言。引き続き、外出は避け屋内待機。

第 4 報 12 時 40 分 万一来て、町内の指定場所に集合、バスで総合体育館に避難。

上記のように、第 1 報とから 2 報までの間が、あまりにも長すぎるので、市の担当者に聞くと、「今回は訓練であるから、要所、要所しか広報しなかった。実際なら、15 分間隔で広報する予定である」とのこと。

- ・ 訓練でも、15 分おきに広報するべきである。担当者だけが承知していても、だめだと思う。訓練で、15 分おきに広報することにより、訓練に参加した人も、訓練に参加しなかった人も、実際でも、このくらい流れるのだという認識ができると思う。

➤ 広報について

- ・ やはり事故には情報の提供が第一。訓練であってもその形は入れておかなければならない。特に、放射能と云う目に見えない物を想定するには多くの情報を提供することで住民の意識を纏め、安心した気持ちと多くの判断・行動を大きく左右するものと思っている。マスコミから流れる報道で心配するより直接の情報がどれほど安心するか。
- ・ 広報は防災無線で全市にアナウンスする方が良い。「そういえばそんなことがあったがどこでやっているのか」とわからない人も多かった。市民であればやは

りそういう情報は知っていた方が良いでしょう。

- ・ 前日 (11/4) に、本日の訓練があるという防災無線で住民に放送してあるのに、今どういう事をやっているという放送がないのは不安になる。いざ、本番というとき困らないようにする為なのだからもっと住民を活用してほしい。
- ・ 広報などで住民の視点に立った対応が取られているのか疑問な点があった。繰り返し現状を住民に広報する必要がある。
- ・ 住民の関心を高めるためにも、各町内やコミュニティにも案内をして、理解を深める場としても活用できるのではないか。(見学)
- ・ 防災無線が最小限放送されたようだが、実施要領に沿った案どおりに行うべきだと思う。(指定地区だけでも) そういう内容も住民を交えて話し合うような訓練にしてほしい。
- ・ また、要となる重要放送は、工夫を加えながら全市に流してみても、訓練への関心や機能的チェックをする機会にもできるのではないかと思った。
- ・ 住民広報のあり方で、もっと多くの住民参加になったと思うが…

➤ 訓練全体について

- ・ 訓練シナリオが異なるが前回の訓練より良い。各種会議の決定事項が復唱されたのは非常に良かった。(我々の自主防災会にも大いに参考にしたい)
- ・ 災害のときは一番、市・村が中心にならなければならないのに、皆、上部からの指示待ちをしているみたいでおかしい。
- ・ テレビ電話等を活用していないのも変。副大臣は来なくても良いのでは。
- ・ 事前訓練のときより見ていてわかりやすかった。
- ・ 緊張感を漂わせた原子力防災訓練にして欲しい。寄り合い所帯で、対応を自治体に下ろすだけという感じがする。
- ・ 今回の防災訓練は何故地震との複合災害にしなかったのか。大規模地震は起こらないということが前提で原発が建設されたのであるから……
- ・ 5年前の国レベルと今回とでは規模の違いはあるにせよ、今回の訓練は各セクションの動きがほとんど感じられないくらい静かだった。
- ・ 訓練は、重ねられることが望ましい。主催がどこであろうと訓練時には情報が住民まで届く具体的な内容や各機関との間をつなぐ情報伝達は、その都度行う努力をしてほしい。
- ・ 参加者が来て良かったと思えるような工夫をするべきかと思う。
- ・ 今後、防災訓練は必要と思われる。
- ・ 5年に1度ではなく、大きな地震を2度も経験しているのだから、国、県指導のみでなく、市、村の防災課での計画を希望したい。あってはならないが、万が一の時、パニックを最小限度にできるように、安全対策が普段から必要と思

う。

- 原子力防災訓練とは、原子力の災害から住民の命や健康を守るため、実際にあることを行って習熟したり、一定の目標に到達させるための実践的教育活動と認識する。
- 住民からみれば、今回の訓練は、やらないよりはやってよかったと思う。

➤ 感想その他

- 防災無線は、1つ、1つは、現地で使用できるので、有効に使うために、その使い方の講習会等を年一回ぐらいは、やるべきと思う。また、練習になるので、各地域で、使ってもらえば良いと思う。
- 国の原子力防災指針を中越沖地震を受けて見直しをすべきで、それなしに県の防災計画を見直ししても根本的な考えが変わらない。
- 本当に事故が起きたとしたら「防災計画」が機能するのだろうかと感じた。訓練だから計画通りに進行するのであって、いきなり本番で大丈夫だろうか。
- 一般災害訓練は避けられない課題だが、原子力災害訓練は、施設がなければ不要な訓練だ。一刻も早く施設の閉鎖を求めたい。それにしても迷惑施設を地域にもたらした先人に対して改めて憤りを覚える。